

ズバ抜けて出来の良い弟子

記者 中田市長と飯田市議の出会いは何？

市長 僕が衆議院議員の時、飯田が「ボランティアをしたい」と議員会館の事務所に来てくれたのが始まりです。当時は勿論、赤坂プリンスホテルの立派なドアマンでしたよ。

飯田 佐川急便事件が社会に対する問題意識を持つきっかけになりました。それと、職業柄、垣間見る日常の政治家の言動です。それらが重なって政治を内側から見たいという好奇心が強くなって国会の事務所に入りました。

記者 飯田市議が「中田宏の“秘蔵っ子”」と言われる由縁は？

市長 私の事務所は規律や社会に対する意識など、それなりに厳しいところです。私と共通の正義感を持っている人じゃないと秘書は続かないんです。自分で考え、行動して、その一挙手一投足が社会の改善に繋がるという意識を持っていないとダメで、歴代秘書の中で、その意識がズバ抜けて高かったのが飯田です。僕を応援してくれた宮前区の後援者なら誰もが飯田の意識の高さを認めますよ。

記者 市長は厳しかった？

飯田 厳しかったです。市長本人を目の前にして言うのも勇気のいることですが、(同、笑)切手一枚貼るのに少しでも曲がっていたら「やり直し」。脱いだ靴を揃えるのは当たり前。全員分です。街頭演説のぼりを置く場所も数センチ単位で指示が飛びます。とつても細かいことです。しかし、それに気づかないと政治はできない。社会の小さな変化に気づかないといけないからです。秘書時代はその訓練をしていたと

思っています。まさに師弟愛ですね。

市長 飯田の内心をはじめ聞いていただけ、そういう意味でも、ズバ抜けて出来の良い弟子ですね。それが“秘蔵っ子”の由縁でしょう。

アクションを起さなくては政治家

記者 議員としての飯田市議をどう見られますか？

市長 飯田が毎月発行している「アルプススタン」 というレポートは、郵送されて来ると読んでいます。正確に言えば、私にはなくて、家内の名前で送ってきます。(笑)私のことをよく知る飯田ならではの手法です。この「アルプススタン」は私も読みますが、市民に対し、非常に丁寧に分かりやすく解説をしている。私も衆議院議員の時は、「自分が何を考え、どういう活動をしているのか」を伝えることに重点を置いていましたが、飯田は私よりもっと丁寧にやっている。議員として、市民に分かりやすく伝える努力をしているのが見取れます。

飯田 このコンセプトは、小学生が読んでも理解できるようにマンガも一部導入しているんです。将来の夢として、「学校の授業で参考資料にでもなればいいな」って思っています。

記者 朝の街頭演説が日課と聞きますが、“中田イズム”を受け継いでのことですか？

飯田 「選挙直前だけ」っていう人の方が圧倒的に多い。でも私は、議会での進捗状況や自分なりの考え、活動報告をリアルタイムで見える形でおこなう。その報告エリアが選挙区だと思えますし、議員の義務だと私は考えています。“中田イズム”？“そうですね。

市長 政治は市民のものです。だから、政治家は有権者に対して知らせる努力や分かりやすく伝える努力が必要で、有権者も知る努力が必要。しかし、アクションを起さなくては政治家です。なぜなら、社会を変えようと自分で立ち上がったのが政治家なんだから。そして有権者も自分が知った範囲の中で投票してほしいですね。



中田宏 横浜市元市長 横浜市元衆議院議員 (宮前区・青葉区、旧8区) が“秘蔵っ子”飯田みつる氏を語る

